
見えない人達

ジラーが笑った日

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

見えない人達

【Nコード】

N7169M

【作者名】

ジラーが笑った日

【あらすじ】

私の、小学生の頃のイマジナリーフレンドを文章にしてみました

彼らは、何も持たずに旅をしている。

欲に溢れるこの世界で、彼らの楽しみは分からない。

彼らは、静かに旅をしている。

騒がしいこの世界で、彼らの声は聞こえない。

彼らは、ゆっくり旅をしている。

忙しないこの世界で、彼らの姿は見えない。

彼らは、風に乗って旅をしている。

モノで埋もれるこの世界で、彼らの髪は触れない。

彼らは、行き先のない旅をしている。

理論が好きな大人には、彼らのご飯は食べられない

2010年3月9日、20時38分10秒の地球の世界人口は、

6,852,885,503 人

この世界にはもつとたくさんの人がいる。見えないだけ。その人達は僕らよりも強い。そして、ずっと、ずっと賢い。

貴方は分かる？彼らの楽しみ。

貴方は聞こえる？彼らの声が。

貴方は見える？彼らの姿が。

貴方は触れれる？彼らの髪に。

貴方は食べれる？彼らのご飯を。

ある子は見えた。彼らの姿。ある子は聞こえた。彼らの声が。ある子は分った。彼らの楽しみ。ある子は食べれた。彼らのご飯。ある子は触れた。彼らの髪に。

その子は何時も、幸せの渦に包まれていて、ひとりぼっち。その

子が見たのは、彼らの姿。真つ黒なその人達は、何時も、何処かを見つめていた。

その子は、彼らが怖かった。彼らの声が、怖かった。

どお、どお、どお、どお、どお、どお、どお、どお、
どおどお、どお、どお、どお、どお、どお、どお、ど
お、どお彼らは何時も喋らなかつたが、その子が見てると喋りだす。
それは何かのセールスマン。何かを届ける、為に喋る。下から、上
から、自分の中から、声が聞こえる。

その子は怯えて彼らを、見ていたが、ある日分つた彼らの声が。彼らの声は、風の中。ゆらり、運んで華が咲く。その子は分つた、彼らの楽しみ。風の華を咲かす、雲の下。その子を包む幸せは、風の華の友達になる。

その子は食べた、風の華。食べたら、ふわり、ふわり、ふわり、幸せの味。真っ黒の彼らと、幸せの渦の中で、幸せのご飯を食べた。その子は作る、風の華。真っ黒彼らが、食べて行く。その子は笑う、にっこりと。

その子は触れた、彼らの髪に。それは影の様に、美しく、その子はいつか夢の中。

どお、どお、どお、どお、どお、どお、どお、どお、
どお、どお、どお、どお、どお、どお、どお、どお、
どお

その子はいつか、真っ黒で、綺麗な髪の彼らの仲間。

貴方は見える？

彼らの姿。

彼らは、何も持たずに旅をしている。
欲に溢れるこの世界で、彼らの楽しみは分からない。

彼らは、静かに旅をしている。
騒がしいこの世界で、彼らの声は聞こえない。

彼らは、ゆっくり旅をしている。
忙しいこの世界で、彼らの姿は見えない。

彼らは、風に乗って旅をしている。

モノで埋もれるこの世界で、彼らの髪は触れない。

彼らは、行き先のない旅をしている。

理論が好きな大人には、彼らのご飯は食べられない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7169m/>

見えない人達

2010年10月22日00時32分発行